

検討した。

正常冠動脈症例において負荷心筋シンチグラフィ (TI) および負荷心電図 (ECG) の両法とも偽陽性を示すのは 8%, 不一致症例は 41% に認められた。冠動脈疾患症例 (CAD) において TI および ECG の両法とも偽陰性を示すのは 14%, 不一致症例は 29% に認められた。TI と ECG の不一致例のうち, TI 陽性例は 68% に, ECG 陽性例は 60% に冠動脈狭窄を認めた。正常冠動脈症例において TI が偽陽性になる原因としては, 45 度像における心室中隔上部の再分布が多く, ECG が偽陽性になる特徴として LVH 症例が多く, 負荷時胸痛を示す例が多かった。肥大型心筋症は正常冠動脈症例における偽陽性の原因のひとつであった。CAD 症例において不一致例および両法とも偽陰性例には, SVD 症例が多く, TVD および LMT 病変では, 大部分が TI・ECG とともに正確に診断できた。SVD 症例において不一致例および両法とも偽陰性例には, LCX 病変および 75% 狭窄例が多かった。両法とも偽陰性例と不一致例との間には, 特に特徴的な違いは認められなかった。多枝病変例においては, TI の視覚的診断では偽陰性になる例があり定量解析が必要であった。正常冠動脈症例では, 45 度像における心室中隔上部の再分布症例の除外, および冠動脈疾患例における定量解析の併用により, TI の検出率は上昇した。

## 26. 心筋梗塞に対する急性期冠再疎通の効果

中森 久人 栗本 透 島田 智好  
神島 宏 唐川 正洋 松浦 隆  
吉長 正博 稲田 満夫 (関西医大・二内)  
西山 豊 (同・放)

急性心筋梗塞に対する急性期冠動脈再疎通の効果を心筋シンチグラムより得た梗塞面積を用いて検討した。

対象および方法: 対象は左冠動脈近位部一枝病変で初回発症の急性前壁中隔心筋梗塞 14 例 (平均 60 歳) である。全例急性期に冠動脈造影 (CAG) を行い, 引き続いて PTCA または PTCR を施行し, 慢性期に CAG, 左心室造影 (LVG), TI-201 心筋 SPECT を施行した。SPECT 再分布短軸像より展開図を作製, 55% Max. count 以下の領域を梗塞域としその面積を算出, 左心室全表面積に対する割合を Necrotic Area Ratio (NAR) とした。LVG より駆出率 (EF) および左室前壁の局所壁短縮率を求め NAR との関連性を検討した。また, 症例を急性期す

に疎通していた I 群 (2 例), PTCA, PTCR により疎通した II 群 (9 例), 疎通しなかった III 群 (3 例) の 3 群に分類した。結果: I 群は II, III 群に比し NAR が有意に小さく壁運動も良好であったが, II, III 両群間では NAR に差を認めなかった。そこで II 群に注目すると, 疎通時間, 側副血行, 残存狭窄による NAR に差を認めなかったものの,  $NAR > 15\%$  の IIa (7/9),  $NAR \leq 15\%$  の IIb (2/9) と 2 群に分類された。IIb 群は IIa 群に比し EF, 壁運動ともに良好であり, そのうちの 1 例は疎通時間が 1 時間と短かった。しかし, IIa 群において, NAR がほぼ等しいにもかかわらず EF, 壁運動の良好な症例を認めた。

以上より, 急性心筋梗塞に対する急性期冠動脈再疎通において, 再疎通までの時間の短縮は梗塞面積を縮小させうと考えられた。また, NAR のみでの冠再疎通の効果判定は今後, なお検討を要する。

## 27. 進行性全身硬化症 (PSS) の心筋病変: ダイピリダモール負荷心筋シンチグラフィによる検討

松原 昇 石田 良雄 谷 明博  
堀 正二 北畠 顕 鎌田 武信  
(大阪大・一内)  
木村 和文 小塚 隆弘 (同・中放)

前回は, ダイピリダモール (Dip) 負荷心筋 Planar Imaging 法にて, PSS の左室駆出率 (EF) 低下例に高頻度局所イメージ欠損および心筋全周性の TI-201 wash-out の低下が観察されることを報告した。今回は, EF 正常の PSS 6 例 ( $EF 65 \pm 3\%$ ,  $AGE 48 \pm 12$  歳, 全例女性) を対象に, Dip 負荷心筋 SPECT を施行し, 心筋血流分布異常が, 心機能が低下する以前から存在するかについて検討した。Dip ( $0.568 \text{ mg/kg}$ ) を 4 分かけて静注した後, 4 分後より  $180^\circ$  回転 SPECT (多方向心臓長

Case	Age	EF (%)	ECG	TD	PD	RR	Min. WR (%)
1	26	63	NL	—	—	—	38
2	57	60	NL	—	—	—	20
3	50	66	NL	+	—	—	12 ↓
4	52	66	NL	+	—	+	29
5	40	70	NL	—	+	—	33
6	65	62	NL	—	+	—	9 ↓

(NL: normal, TD: transient defect, PD: persistent defect, RR: reverse redist., WR: washout ratio)